

老子の思想を探究しよう 一

単元目標

- ① 老子の思想がどのような思想なのか理解できる。
- ② 複数の文章（老子や関連文章）を比べて読み、文章同士のつながりを理解することができる。

○学習後の感想、疑問点の解消、新しく知ったことやできるようになったことを箇条書きで三つ以上書こう。（ 月 日）

○目標達成度

- ① 老子の思想がどのような思想なのか理解できた。
できた（ 3 ・ 2 ・ 1 ）できなかった
- ② 複数の文章を比べて読み、文章同士のつながりを理解することができた。
できた（ 3 ・ 2 ・ 1 ）できなかった

老子の思想を探究しよう 二

○ 「道徳斉礼（論語・336ページ）」を読み、孔子はどのように治世するとよいと考
えているのかを考えましょう。（老子の思想を考える準備です）

1 「之」とは、何のことですか。

2 二行目「有恥且格」とは、どういうことですか。

3 では、一行目「民免而無恥」とは、どういうことですか。

4 ★なぜ「民免而無恥」という状況になってしまうのですか。本文の内容を踏ま
えつつ、自分の言葉で答えてください。

5 ★孔子はどのように治世するとよいと考えていますか。

老子の思想を探究しよう 三

○「無為之治（老子・344ページ）」を読んで老子はどんな治世をするとういと考えているかを、孔子の唱える理想の治世（道德斉礼）と比較しながら考えましょう。

1 「尚賢（一行目）」とは、例えばどんなことをすることですか。

2 「不尚賢、使民不爭（一行目）」となるのは、どうしてですか。

3 ★「虚其心（三行目）」を言い換えている箇所を五字以上で抜き出しましょう。

4 「使夫智者不敢為也（四行目）」の解釈として最も適当なものを選んでください。

ア 知恵のある有能な君主が、民の統制に苦勞する必要がなくなる。

イ 知恵のあるように見せかけた君主が、暴政を行うことがなくなる。

ウ 遊説の士などの知恵者とされている者たちが、活動する余地がなくなる。

エ 知恵のある家臣であっても、容易にできることではない。

5 ★老子の治世を孔子の治世と比べて、どのように治世するとよいと考えているのでしょうか。解答欄に従ってください。

老子の思想を探究しよう 四

○ 「無為之治」を反映した国（集落）はどのような社会なのだろうか。「小国寡民（老子・345ページ）」を読んで、老子が具体的にイメージした社会にはどのような特徴があるのか読み取りましょう。

1★「小国寡民（一行目）」とは、どのような社会の状態を言っているのですか。

2「雖有舟輿、無所乘之（二行目）」とありますが、このようにするのはなぜですか。本文の言葉を使って答えましょう。

3★「使民復結繩而用之（三行目）」とありますが、このようにするのはなぜですか。「無為之治」の内容を踏まえて答えましょう。

4「隣国相望、鷄犬之声相聞（四行目）」とは、隣国同士がどのような関係にあることを言っているのですか。

5★「民至老死、不相往来（五行目）」とありますが、なぜ民は移動しないのですか。

6 あなたは老子の理想とする社会の「民」は幸せだと思いますか。その理由も。

7★老子は民衆を統治するための方法として、どのようなことを主張していますか。「無為之治」と「小国寡民」の内容を踏まえて説明してください。なお、「知恵」「欲望」「満足」という語を必ず用いること。

○「桃花源記(361ページ)」は老子の思想に影響を受けた陶淵明とうえんめいという人物が描いた作品である。彼はどんな社会を桃源郷(理想郷)としたのか考えてみましょう。

1 第一段落で描かれている林の様子として、適当でないものを選んでください。

ア 武陵からは距離が分からないほど遠くにある。

イ 花びらがしきりに散り乱れている。

ウ 色鮮やかでかぐわしい草が生えている。

エ 木は桃の木しか生えていない。

オ 川の水源には小さな入り口のある山がある。

2 ★第二段落で描かれている村の様子として適当でないものを選んでください。(選択肢を作ってみましょう。)

ア

イ

ウ

エ

オ

3 「不足為外人道也」を現代語訳してください。

4 「不足為外人道也」について、村人たちはなぜこのように言ったと考えられますか。適当なものを選んでください。

ア 外部の人が多数訪れると、もてなしきれなくなるから。

イ 外部の人が来て、村の平和を乱されるのを恐れたから。

ウ 外部の人に見せるほど立派な村だと思っていないから。

エ 外部の人が信じなかったら、漁人がかわいそうだから。

5 第三・四段落について述べた文として、適当でないものを選んでください。

ア 村人たちは漁人を大いに歓迎し、数日間、食事や宿泊場所を提供した。

イ 村人たちの祖先は、始皇帝の暴政によって政情が乱れた際に、世を避けて村に隠れ住んだ。

ウ 村人たちは漁人に対して関心を示し、漁人が語る外の世界の話をこぞって聞きたがった。

エ 劉氏驥は漁人の話を聞いて村を目指したが、迷ってたどり着けなかった。

オ 再び村を目指した人たちが誰もたどり着けなかったため、その後村へ行くこととする人はいなかった。

6 ★本文に基づいてできた理想郷・ユートピアを表す「桃源郷」という言葉は、人口に膾炙している。これを書いた作者の意図はどのようなものであったと考えられますか。

ア 自分の理想としていた世界を自分の心の中にだけしまっておこうとした。

イ 混乱した社会を早く改造したい気持ちを述べた。

ウ 理想社会を描くことによって現実を洞察して批判しようとした。

エ 理想としていた社会に作者が出会った幸運を述べようとした。

オ 実在していた漁人・太守・隠者が登場する実録を世に残そうとした。

老子の思想を探究しよう 六

○ 次の文章は『幽明録』の劉晨と阮肇について書かれた文章です。「桃花源記」と同様に人が仙界(俗世とは隔絶された神聖な場所)に迷い込むお話です。二つの文章を比較しながら読んで、本文の内容として最も適当でないものを選んでください。

漢明帝永平五年、剡県劉晨・阮肇共入天台山取穀皮。迷不得返、經十三日。糧食乏尽、飢餒殆死。遥望山上有三桃樹大有子実。而絶巖邃澗、永無登路。攀援藤葛、乃得上至。各瞰数枚、飢止体充。復下山。持杯取水、欲盥漱、見蕪菁葉從山腹流出。甚鮮新。復一杯流出。有胡麻飯糲。相謂曰、「此知去人径不遠。」

便共没水、逆流二三里、得度山出一大溪。溪边有二女子。姿質妙絶。

(二人の女は劉晨と阮肇を見ると「劉と阮が、さきほど川に流して見失ってしまったお椀を持ってきましたよ」と言う。劉晨と阮肇はこの二人の女と面識はなかったが、二人がすんなりと劉晨と阮肇の姓を呼んだことから、昔なじみであったような心境を覚えた。女は劉晨と阮肇を迎えて家に帰った。その家の二つの豪華な寝台があり、その傍らにはそれぞれ十人の侍女がいた。女が侍女に用意させた食事は非常に美味で、食後には宴会が行われた。日暮れになると、それぞれに寝台を割り当てて宿をとらせ、女がやってきてこれに付き添った。その声は清らかで美しく、聞く者の憂いを忘れさせるかのようにだった。)

十日後、欲求還去。女云、「君已来是、宿福所牽。何復欲還邪。」遂停半年。氣候草木是春時、百鳥啼鳴、更懷悲思。求歸甚苦。女曰、「罪牽君当如何。」遂呼前来自女子有三十人、集会奏樂。共送劉・阮、指示還路。

既出、親旧零落、邑屋改異。無復相识。問訊得七世孫。伝聞上世入山、迷不得歸。至晋太元八年、忽復去、不知何所。

ア どちらの話も道に迷った人が異世界に迷い込むというお話だね。そして、お話に登場する集落は、どちらも俗世とは隔絶された小さな共同体だね。そこでもてなされて、しばらく楽しく滞在するという流れも一緒だ。イ しかも、どちらも異世界の近くには桃の木が生えているよ。これは、中国では桃が魔よけの効用があるとか、不老不死の薬になると考えられている、神聖視されていることと関りがありそうだね。

ウ 女性だけしかない幽明録の集落にはあまり現実らしさはないけど、桃花源記では、人々が始皇帝の暴政について言及している場面があって、読者に「もしかしたら、どこかにこういう集落が本当にあるかもしれない」って思わせるような工夫があるよ。

エ だけど、どちらの話も共通して、仙界から現実世界に戻った人が、もう二度とそこへはたどり着けないというオチになっているよ。登場人物たちが見つけた集落は、やはり異世界だったと考えられるね。